

但馬地域県立高校の生徒募集定員見直しに関する意見書

但馬地域における全日制普通科は、かつての南但・北但学区制から但馬1学区制、複数志願選抜制度となり、生徒にとって選択肢の広がったところである。しかしながら、人口減少の傾向はとどまらず高校入学対象者数も減少の一途をたどっている。それに対しては、近年、南但・北但地域ごとの中学校卒業者数の減少状況を基に、南但・北但各地域の学級数で調整が図られていると推察される。

但馬1学区制となっている今、今後の但馬全体の高校の在り方を考えることが必要である。また、その際には広域でかつ過疎地域であることに加え、地域における高校の存在意義なども十分に考慮していただきたい。

教育の質の保持、人材の育成という視点で考えると、特色ある市内の普通科2校の学級数、教員数は現状の規模を最低条件として維持すべきである。但馬内の公立高校が小規模校ばかりになると、公立高校の地盤沈下が始まることを懸念する。

よって、下記の事項について特段の配慮を強く要望する。

記

- 1 高校卒業後、高等教育機関（大学など）への進学を望む子どもたちの割合は今も増え続けている。全日制普通科は大学などへ進む過程として、重要な役割を果たしていることは明らかである。
市内、普通科高校の入学者定員、教員数、学級数は減らさないこと。
- 2 生徒がどういう学校に行きたいのか十分に考慮すること。
- 3 地域の特性、地域における高校の存在意義を十分に考慮し、長期的展望に立ち、生徒にとって学びたいことが学べる特色と魅力ある高校の在り方を検討すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年6月27日

豊岡市議会

兵庫県知事
兵庫県教育長 } 殿